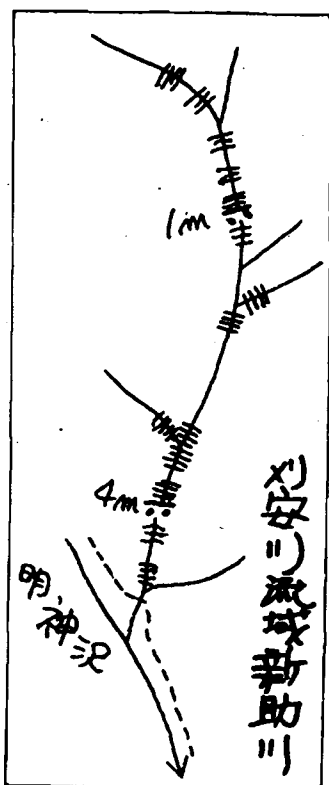


刈安川流域新助川

1990年10月14日

I



天気晴。西栗子トンネルの米沢側に車を止め、刈安川本流明神沢に入る。最初はナメと釜が続き、3mほどの見事な滝が出てくる。右を直登する。続いて2mの滝も右を登り、10分ほどで新助川の出合に到着する。

新助川の出合は、ゴーロで貧弱である。遡行を始めてすぐ、ケーブル設置のための作業道が横切る。この道は荒れているが、栗子山塊を横断して、福島県側へ続いている。

作業道を過ぎるとナメが出てきて、右から支沢が入る。ヤブがかぶさっていて、見逃しやすい。私たちはナメに気をとられていて、この支沢を確認しないまま通過してしまった。このあたりから、沢は出合の貧弱さとは一変して、感じがよくなって来る。やがて4m

ほどの滝。期待をもって入った沢でないだけに、大きな収穫である。スタンス、ホールドは豊富にある。上部は取水口になっているが、だいぶ古いもので、こわれていて今は使われていない。まわりを確認したが、踏跡も残っていない。

14:00右支沢と出合う。支沢もまたナメである。14:15右から2本続けて小沢が入る。本流には相変わらずナメが断続して現われ、快適に遡行を続ける。

14:25右から小沢が入ると、沢は左へカーブし、水量も少なくなってくる。地図を見ながら休憩していると、沢の上部からカモシカがひょっこり顔を出し、私たちを見ている。このころからポツポツと雨が降ってきた。

14:30遡行終了とし、下降にかかる。作業道まで沢を下降し、あとは作業道を歩いて13号国道に戻る。

(記・和泉 功)

[タイム] 西栗子トンネル(13:35)→新助川出合(13:40)→沢終了(14:30)

栗子川右俣右沢

1990年9月24日

I